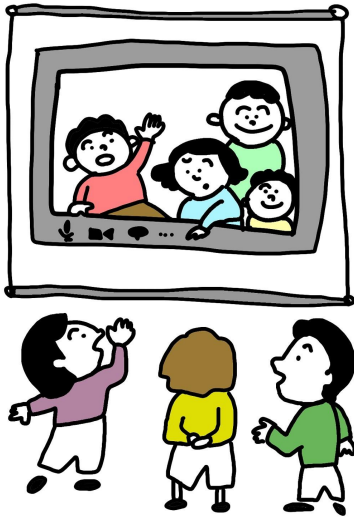


オンラインリアルタイム対話型

問い	オンラインリアルタイムの対話型の授業では、生徒同士が自分たちで会話することが重要です。ところが、最初のうちはどう話したらいいのか、どう反応したらいいかがわからず、沈黙になってしまったり、伝わっているかどうかわからなくて不安になってみんな話せなくなったりします。どうすれば、生徒同士の対話を活発に進めることができるのだろうか？
イメージ	
レイアウト	<AC> <SJ>高性能マイクスピーカーを教室中央に。一人一台端末でzoomに入室→オーディオ切断。教室内の発言はマイクスピーカーが拾う。 <RJ>話し合いを活発にするには、1人1台の端末が必要である。コミュニケーションマイク・スピーカーシステムで音声はカバーできることも多いが、お互いの顔が見えにくく話づらい。 対面授業を教室と教室でしている場合には、教室全体が映し出されるモニターか液晶プロジェクターが必要である。 <SP> 事前に子どもたち同士のふれあいの時間をつくり、自由に語り合える雰囲気・人間関係づくりを構築しておくこと。話のスタートを切る働きかけを行うこと。
使用する機器	<AC> ・i-pad, ロイロノート、それぞれの意見が見える化 <SJ>iPad一人一台, YMAHAマイクスピーカー, 教師用PC, 大型スクリーン <RJ>1人1台の端末と考えが絵などでも書き込めるように、Apple Pencilが便利である。 <SP> 1人1台の端末がベストである。自己表現が可能なソフトの導入と自由に使用できるノウハウを身に付けておくこと。パソコン複数
良いところ	<AC> ・回数が少ない→関係性を構築する必要がある <SJ> ・自主的に進めている。色々な考え方に触れることができる。水平的な学び。 ・普段は小規模→遠隔につながることによって多様な生徒と話することができる。 ・同じ年代の子どもたちと一緒に授業をすることが励みになる。 ・協力して課題を解決しようという気概が生まれる <RJ> だんだん慣れてきて、自分たちの意見が言いやすくなる。 お互いがリアルタイムで意見を言い合えるので、柔軟な対応ができる。 <SP> 事前に打ち合わせ、準備が可能。両校で学び合いができる。お互いがモデルになったり、友だちの考えから水平的な思考が広がったりする。

問題点	<AC> 時間 <SJ> ・広がりすぎてなかなか収集がつかない。意見の言い合いでおわってしまう。 ・意見を活発化させるために手立てが必要 ・単発ではなく継続するのが望ましい <RJ> ハウリング。 オンライン以外の時にも繋がれるような工夫があるのではか。 <SP> wi-fiの問題。 意見を述べて終わってしまう。どのようにまとめていくかが課題。考えが広がりすぎて、学びが繋がっていかない。
工夫点	<AC> ・子どもたちの日頃の授業でのつながり→回数を増やす ・教師同士の連携 全体では困難→低学年部、高学年部等 <SJ> ・ファシリテーションカード等でファシリテーターとしての資質能力を向上させ、子ども中心の話し合いを実現させる。 ・シンキングツールの活用で思考の流れをスムーズに。 ・特定の授業フォーマットを内容に合わせて繰り返し実施し、手立てに慣れさせる。 ・グラレコを活用し、分かりやすい記録を。また、児童生徒の気持ちを表すカードに。 ・教師の画面をオフにするか、ポイント等をバーチャル背景で提示することで、話しやすい雰囲気に ・ブレイクアウトによるグループ学習。多人数なら特にジグソーが面白い ・ビデオ交流を混ぜることも可能ではないか。 <RJ> ・ブレイクアウトルームの効果的な活用。目的をもったグループ作り。 ・話し合いに慣れないうちは司会者、発表者、質問者など役割を明確化するなど、活動をスモールステップで進化させていく。 ・意思表示をするための側面を色分けした三角柱のようなツールを児童生徒に持たせ、色で意見分布を互いに把握し合う。 <SP> ・機材をいくつか準備し、授業が途切れないようにした。 ・見通しが必要;大きなテーマがあって、次回の予告。学びのシリーズ化が必要。全体のテーマを決めて、次回の予告アナウンスも大切。 ・校内で日常的にオンラインリアルタイム対話を経験する。総合的な学習の時間を使いオンラインで対話型レクを行う。
困りごと	<AC> ・ICT環境。 <SJ> ・特になし <RJ> ・ICT環境。 <SP> ・Wi-Fi 環境の整備 ・交流校の児童数の違いによるグループ化の工夫 ・ブレイクアウトルームに別れた後の活動内容の把握が難しい。
挑戦したいこと	<AC> <SJ>VRの活用。作品やグループワークシートなどの共同同時制作。 <RJ> ・子どもたちが話し合いの中で、記録として、jamボード、google スライド、padletなどを使って話し合いを深めていくこと。 ・子どもたちが話し合い、協働していくことで、表現(絵や音楽、図工での作品作り、Scratchによるプログラム作り)や発信(webページ作成等)、行動につなげていきたい。 <SP> ・一人一台iPadの実用化
質問	IRE型と対話型の線引きはどういうところなのでしょう。